

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271100582		
法人名	社会福祉法人 草雲会		
事業所名	グループホーム あしたか		
所在地	島根県松江市東出雲町出雲郷490番地		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成30年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道9号線から阿太加夜神社の参道に入った所にある和風平屋の古民家風の建物です。「葺高」の地名から「あしたか」と名付けられました。1ユニット9名の少人数で、顔なじみの関係が出来やすく、それぞれがその人らしく暮らせるよう支援しています。暮らしの中で、その人が出来る事、洗濯物干し、たみ、調理、盛り付け、食器洗い、掃除などしていただく中で、共同生活の良さを実感していただいています。それぞれの居室は自分で出来る方は自分で整理、整頓、掃除をしていただいています。入浴は檜風呂で、毎日入れるような体制にしています。隣接する法人の特養、デイサービスと連携し、クラブ活動、行事などで交流を図ったり、地域交流として、小学校の運動会や発表会、地域のイベントにも積極的に参加し、楽しみや生きがい作りを支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの思いややりたいことを探り、持っている力を発揮出来るように支援し、理念に沿った実践をしている。気付いた事があれば日々スタッフ会議で理念に立ち返って学習し再確認している。認知症研修開催や実習受け入れを積極的にに行い事業所の力を活かしている。地域の行事には利用者全員で参加し小中学生との交流やボランティアの関わりも多い。職員は法人施設・事業所と連携し、さらに地域住民とつながりを広げ深めることに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「ワンラブワンハート」をベースに、基本方針「主役はご利用者様」あしたか理念「一人一人の思いを大切に安心して暮らすを目指します」をいつでも見えるところに掲げ、意識しやすい工夫をしている。	法人の理念に基づいて方針を掲げ、年度初めに職員間で話し合い確認し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的と言えるほどではないが、隣接する法人施設・事業所と連携し、クラブ活動・行事に参加、交流。地域の公民館や小学校の行事、地域のイベントにも参加し子供達、地域の方々と交流している。	地域行事に積極的に参加し文化祭では毎年、作品展示を継続し、お茶、生花、書道のクラブ活動ではボランティアと交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記の行事や運営推進会議などの関わりを中心に、家族や地域の方に認知症の正しい理解をしていただけるよう努めている。又法人主催で、認知症の研修会を地域の方や事業所にも参加を呼びかけ開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議について家族全員に参加を呼び掛け、現状報告などにより、グループホームの実際を理解していただくようにしている。その中で意見、要望等をケアにいかしている。欠席の家族には報告書を送付している。	利用状況や活動内容を報告し運営に協力を得ている。行事後に会議開催をして意見、要望を聞きケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは運営推進会議や東出雲地域ケア多職種ネットワークやらこい東出雲等で、意見交換し、連携、連絡を取り、協力関係を築いている。	様々な会議や場を利用し、日頃から情報交換を行い連携して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人、事業所研修を通して、身体拘束について、常に学び、実際のケアが身体拘束にあたらないか常に振り返り、職員間で話し合い、身体拘束適正化に取り組んでいる。運営推進会議でも取組状況を報告している。	研修を行い身体拘束をしない支援に取り組んでいる。毎月のスタッフ会議で実際のケアについて振り返りを行い職員間で確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人、事業所、外部研修に参加する機会を持ち、虐待について学び、きちんと理解し、ケアや暮らしの中で、ささいなことでも虐待が見過ごされないよう、職員間でお互いに注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人、事業所研修や外部研修に参加し、成年後見制度等について学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、丁寧に説明し、質問等にきちんと対応し、理解、納得をいただき、署名、捺印をいただいている。改定時には説明会を開催し、口頭と書面で説明して、納得の上、署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等が出た意見、要望等を職員、法人内、介護保険課にも報告し、スタッフ会でその内容について検討、改善に努めている。	運営推進会議や面会時に意見を聞いている。利用者の状況に合わせた支援が出来るように家族と相談し利用者の要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内サービス担当者会やスタッフ会での提案や意見について、運営会議、幹部会議など意見を反映させる機会を捉え、検討している。	管理者は日頃から職員と何でも言い合える関係があり意見や提案を反映させている。職員は気付いた事をノートに記入しておき、話し合い情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ間で出た要望等、幹部会議、運営会議で状況報告し、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量等に応じて、法人内研修や外部の研修に出来るだけ参加できるように配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の受け入れを積極的に行い、他の事業所の職員との交流を図ったり、グループホーム部会の研修ややらこい東出雲の研修にも参加させて、意見交換や交流で情報交換できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者について過去利用していた事業所から詳細に情報収集し、情報の共有をし、新たな発見があれば、スタッフ間で速やかに情報を流したり、入所されて数日は勤務体制を厚くし不安のないように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用者の家族に対しては、要望等を丁寧に聴き、不安のないように細やかに説明し、何かあればすぐに連絡し、安心していただくよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みの段階で、当施設のできるサービスを説明し、状況確認し申し込みをしていただく。その後、年1回調査をし、現況確認をしている。空きが出そうな時点で再度状況確認し、今後の方向性を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らす」というグループホームの原点に常に振り返りながら、本人の出来る事、出来ない事の見極めをして、何気ない日常の中で、寄り添う会話を心がけ、良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人からの要望等出来るだけ家族に繋げ、何かあればすぐに連絡させてもらい、関係性が途切れないようにし、ご家族と相談しながら最善の方法を共に探り、良い支援が出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されてすぐは比較的面会があるが、少しずつ遠のきがちになるので、出来るだけ続けて来ていただくようお話をしている。来られた時には利用者とゆったりとお話ができるよう配慮をしている。	地域のイベントや法人の行事に参加し馴染みの関係が途切れないように努めている。家族の協力を得て外出や外食を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格等多くの情報を勘案し、トラブルが起きない様、又孤立しないようスタッフ間で常に観察しながら上手く支えられるような関係作りが築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も機会を捉えて利用者の面会に行ったり、家族にその後の様子を伺い、心配ごと等ないか聞き、必要時には相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話や行動から一人ひとりの思いをくみ取り、スタッフ間で情報を流し、本人の思い、要望等が実現できるようにしている。	日々の関わりの中でしっかりと聞くことに努め、思いや希望を把握しにくい時は利用者の出来ることを大切に、職員間で共有しながら支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族、担当ケアマネから情報を収集し、本人との会話の中から聞きだしたこと等、得た情報をスタッフ間に流すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、本人の力量を確認しながら、生活のリズムや心身の状態に注意し、小さな変化を見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から思いを聞きだし、素案を作り、スタッフの意見を聞き作成している。月1回スタッフ会でモニタリングを行い、ケアの見直しを行い、検討すべきことは全員で検討し実施している。	毎月のスタッフ会議でモニタリングに基づいた介護計画やケアの見直しを行っている。状況の変化には早目に対応し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に本人の言葉をそのまま記載したり、些細なことでも気づいたことを記載するようにしている。重要で、必ず伝達したいことは別の連絡ノートに記入し情報の共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の個性に応じ、こうあるべきという接し方ではなく、柔軟な姿勢で利用者に向き合い、その人に合ったケアをしていくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの関わりによるお茶会、生花、絵画、書道クラブなどに参加していただいている。地域の方との触れ合いもあり、昔していたことを思い出す機会にもなっており、楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時のかかりつけ医をそのまま継続し、原則受診は家族にお願いしている。受診時には詳細な情報を伝え、適切な診断ができるようにしている。家族が出来ない場合は、受診介助を行い、必要な医療が受けられるようにしている。	希望のかかりつけ医に継続受診し、必要時には受診介助している。緊急時にも適切な医療を受けられるようかかりつけ医と関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在事業所内には看護師はいないので気になることがあれば、主治医に相談しアドバイスを受けている。歯科に関しては必要な方は訪問歯科診療を受け、口腔ケアについて、指導を受け、実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに日頃の状況を情報提供し、環境が変わり不穏になり易いので、出来るだけ面会に行くようにしている。その際に病院スタッフと情報交換し、早期に退院できるように相談に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に当施設が看取りをしていないことをきちんと伝え、将来的な方向性、重度化した時のことを確認している。必要により、特養への申込み等提案し、アドバイスをさせていただいている。	入居時に事業所の方針を伝えている。法人施設と連携してその都度検討し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で年1回、必ず「救急法」の研修に参加し、利用者の急変時に対応できるように研修をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の消防避難訓練は年2回行っている。地域の協力体制は隣接の法人施設に依存している。地震、水害等についてはマニュアルを現在検討、作成中である。	法人施設と連携して取り組んでいる。訓練で居室入口の護送表示の工夫を指摘され検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護や接遇の研修等を通して、人権尊重やプライバシーの確保を学んでいる。毎日接遇の読み合わせをして、言葉かけや対応について日々意識しながら対応している。	研修や日々のケアを振り返って話し合い、さりげない声かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、本人の意向を確認したり、選択していただくよう働きかけている。普段の会話の中で、本人の思いをくみ取るような関わりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を出来るだけ優先するようにしているが、状況により希望に添えないこともあり、その際にはきちんと説明し、納得していただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれのこだわりを大切に、着替える衣類の選択をしていただくようにしているが、季節や気温等により、アドバイスをすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で食べたい物を聞き、献立に取り入れている。出来る方には調理、盛り付け、食器洗い等していただいている。	利用者の力や役割を大切に配膳の準備、調理、食事、片付けを一緒に行い、楽しむことの出来る支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方に対して、カロリー制限食を出したり、嚥下機能の低下した方にはペースト食、とろみ職を提供し、一人ひとりの状態に応じ、栄養のバランスのとれた食事を提供するように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをして歯磨きをしていただいているが、きちんと出来ない方は介助にてきれいにしている。夕食後は全員義歯をきれいにしてお預かっている。定期的に義歯の洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄のパターンをスタッフで共有し、本人の状況により、自立の方向に行くように働きかけている。	利用者の排泄パターンを把握して自立に向けた支援をしている。トイレは居室のすぐ近くにあり、リハビリパンツとパットの併用で利用者全員がトイレで排泄出来るよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、便秘が続かないように、バナナ、ヨーグルトなどを取り入れ、食事の工夫をしている。時には主治医に相談し、適時緩下剤、下剤の服用もしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則、毎日入浴ができる状況にしており、本人の要望も受け入れながら、適切な入浴時間と回数を確認している。デイサービスから入所に繋がった利用者がほとんどで、夜間の入浴希望者はおらず、昼間に入っている。	利用者の希望に沿って入浴を楽しんで貰っている。手すりや踏み台使用で安全に入浴出来るよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は何となく大儀で部屋で休みたいと言われる方は部屋で休息していただいている。消灯時間は決めてはおらず、部屋に入られたら、テレビを見たり、読書をしたり自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録ファイルや連絡ノートに、薬の状況を記入して薬の変更等分かるようにしている。薬の詳細な情報は、フェイスシートに入れ、誰でも分かるようにしている。薬による特変等がないか観察し、スタッフ間で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者や家族からの情報や日々の関わりの中で今までの楽しみや得意だったことを聞きだし、その情報を共有し、その人の役割やアクティビティに活かせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は神社の散歩やドライブに出たりするが、天候や職員体制によりその日の要望にはタイムリーに添うことは出来ないことが多い。その代わりに、受診時に買物などに行ったり、説明して日を改めて出かけるように極力努力している。	一人ひとりの習慣や思いに合わせて、戸外へ出かけられるように努めている。近所の神社周辺の散歩や個別の外出時など移動の配慮をしながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、家族がしており、小口現金として一部預かって、その中で、必要な物品を購入している。家族の了解の元、少額を自分で持っておられる方もあり、時にはそれで化粧水など買いに行かれるのを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時にはいつでも家族に電話ができるようスタッフが取り次いでいる。特に夜になると不穏になり、家に電話を掛けたいと言われる方も家族の了解のもと、いつでも声が聞けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有場所については清潔感のある環境整備を心がけ、いつでも自由に誰でも使える雰囲気にして花や作品を飾って、季節感が感じられるよう工夫をしている。	玄関や廊下、居間、食堂は季節に応じた飾り物や手作り作品が置かれ居心地の良い場になっている。「玄関に入ると実家に帰ったようだ」と感想を持つ家族もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席については、ほぼ固定化しているが、折り合いが上手くいか見極めをしながら、必要な場合は柔軟に変更して、それぞれが快適に過ごしていただくように配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物品を持ってきていただき、本人が安心して過ごせるような環境作りを家族と相談しながら行っている。	利用者、家族と相談しながら使い慣れた家具やテレビ、飾り物を置きその人らしい部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ることを大切に、出来そうなことにも挑戦していただくようスタッフ間で話し合い、情報を共有し、実現に向けて支援している。		